実施	平成28年度

事務事業事後評価表

≪基本情報≫

事務事業の名称【1】	健康増進事業	所管課【2】	保健予防課
		評価者(担当者)	吉田　章太
総合計画での位置付け【3】	基本目標(章)	⑤いきいきと暮らせる福祉のまちづくり	重点施策【4】
	主要施策(節)	(1)保健医療体制の充実	□該当
	施策区分	(1)健康づくりの推進	
	(市民意識調査結果)	□【A】重点改善領域　☑【B】重点維持領域　□【C】観察領域　□【D】維持領域	
実施の根拠(複数回答可)【5】	□市長公約　□新市建設計画【　年度予定　:　金額　千円】 ☑法令、県･市条例等【 健康増進法 】 □その他の計画【　】　□該当なし		
事業区分【6】	☑ソフト事業　□義務的事業　□建設･整備事業　□施設の維持管理事業 □内部管理事務　□計画等の策定事務		
会計区分【7】	☑一般会計　□特別･企業会計【　】	款 4	項 1　目 2　細目 9

≪事務事業の目的≫

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか)【8】	生活習慣病の予防は重要な課題であり、若い世代からその予防に取り組むことが必要となる。そのためには、食についての正しい知識や運動の習慣化が効果的であり、実践･継続のためには人と人のつながりを強化し、互いに支えあい、地域の健康課題を考える場など社会環境整備も求められているため。
対象(誰、何に対して)【9】	市民
意図(どのような状態にしたいのか)【10】	生活習慣病予防のために、食についての正しい知識や運動の習慣化に取り組むための学習の場を提供することで生活習慣病を予防する。また、市民と関係機関･行政が連携を図り、協働で健康づくりの現状･課題･目標･対策について共有し、市民主体の健康づくりに取り組む。

≪事務事業の概要≫

事業期間【11】	□単年度のみ【　年度】　☑単年度繰返し【 H17　年度から】　□期間限定複数年度【　年度～　年度まで】	
事業主体【12】	□国　□県　☑市　□民間　□その他【　】	
実施方法【13】	□直営　□全部委託　☑一部委託　□補助金等交付　□その他【　】	
事務事業の具体的内容【14】	①ヘルスアップ教室はカリキュラムに沿って、健康に関する講話や運動実技、調理実習等、年間8回の学習会を開催する。 ②ゆったりストレッチ教室は健康運動指導士を講師として年間10回の教室を開催し、体操の実技を行う。 ③国保会計で行う健康増進に関する業務のうち、特定健診以外の経費について繰出しを行う。 ④校区を単位として市民主体の健康づくり活動を支援する。 ⑤生活保護受給者への健診、人間ドックの歯周病検診等の補助を行う。	⇒ 事務事業を構成する細事業【15】 ① ヘルスアップ教室業務 ② ゆったりストレッチ教室業務 ③ 国保会計への繰出金業務(人間ドックオプション分等) ④ 市民と協働の健康づくり事業 ⑤ 健康診査等業務

≪事務事業実施に係るコスト≫

				H25年度決算	H26年度決算	H27年度決算	H28年度予算	全体計画
投入コスト	事業費(千円)	国庫支出金	%					
		県支出金	66 %	4,833	798	660	927	
		起債	%					
		受益者負担						
		その他						
		一般財源		11,299	12,505	12,971	14,741	
		【16】小計		16,132	13,303	13,631	15,668	0
		[再掲]臨時･非常勤職員人件費(千円)		0	610	586	0	
	職員の人件費	職員人工数		0.45	1.11	0.99	0.99	
		職員の年間平均給与額(千円)		5,424	5,761	5,761	5,761	
		【17】小計		2,441	6,395	5,703	5,703	
	合計			18,573	19,698	19,334	21,371	

≪事務事業の手段と活動指標≫【18】

事務事業を構成する細事業		手段（細事業の具体的内容）	活動指標	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画
①	ヘルスアップ教室業務	食や運動等の学習会を開催することで食改の後継者を育成する。	教室開催回数	回	8	8	8	8
②	ゆったりストレッチ教室業務	講師によるアロマ・エアロ等を取り入れた実技指導を行う。	教室開催回数	回	10	10	10	10
③	国保会計への繰出金業務（人間ドックオプション分等）	国保会計で行う健康増進に関する業務のうち、特定健診以外の経費について繰出しを行う。						
④	市民と協働の健康づくり事業	校区を単位として市民主体の健康づくり活動を支援する。	取組み校区数	小学校区	1	1	5	5
⑤	健康診査等業務	生活保護受給者への健診、人間ドックの歯周病検診等への補助。						

≪事務事業の成果≫【19】

成果指標（意図の数値化）		計算方法又は説明	単位	H25目標 / H25実績	H26目標 / H26実績	H27目標 / H27実績	H28目標
1	食生活改善推進員協議会加入率	食生活改善推進員協議会加入者数／ヘルスアップ教室生数	%	100	100	80	70
				60	84	48	
2	ゆったりストレッチ教室参加率	ゆったりストレッチ教室出席者数／ゆったりストレッチ教室生数	%	100	100	80	70
				75	76	75	

≪事務事業の評価≫

評価項目		評価の視点	評価	評価の説明
妥当性〈判定〉A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	□ 問題あり ☑ 問題なし	各種教室が健康づくりのための栄養の知識習得と運動の習慣をつくる機会となっている。参加者の健康状況にも改善がみられ、教室終了後も自主的に仲間と運動を継続したり、健康づくりに取り組んでいる。
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、市民ニーズの低下により役割が薄れていないか。	□ 問題あり ☑ 問題なし	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	☑ 影響あり □ 影響なし	
有効性〈判定〉B	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	□ 達成 ☑ 未達成	自己のスキルアップと健康づくりを目的にヘルスアップ教室を受講される教室生が多く、食生活改善推進員協議会への加入者数が減少した。
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	☑ 十分 □ 不十分	
効率性〈判定〉A	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	□ 余地あり ☑ 余地なし	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	□ 余地あり ☑ 余地なし	

≪今後の方向性と改善≫

今後の方向性【31】	□ 拡充して継続　☑ 現状のまま継続　□ 縮小を検討　□ 休止・廃止を検討 □ 細事業の効率化【 □ 改善・見直し　□ 民間活用　□ 他事業と統合　□ 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	生活習慣病予防や健康づくりの大切さの認識を深め、食の学習や継続的な運動の機会となり、同じ目的を持った者同士の仲間づくりの場にもなっているため、ニーズをとらえつつ事業を継続する。
昨年からの見直し・改善状況【32】	ゆったりストレッチ教室は全日程の参加者を表彰し、意欲向上を図る。市民と協働の健康づくり事業は、三ツ川校区の取組み充実と天水地区等に生活習慣病のための学習会にて取組校区数の拡充を図った。また、市民と協働の健康づくり事業は、地域の現状や課題を住民と共有し、取り組み校区を拡充していく予定であり、平成28年度は職員間で取り組みの報告会を開催し、事業の共有を図り推進する。

■評価責任者記入欄■

		評価責任者
評価責任者（課長）の所見【33】	これらの活動に参加され、終了後も自主活動にも参加されており、意識も高く是非継続すべき事業である。また、地域での健康づくり活動事業においても、今後重要と考え推進・拡大を図る。	竹村　昌記